

建設産業Q&A



Q 建設産業にはどんな仕事があるのですか？

A 工事の施工・品質・安全を管理する「施工管理者」と呼ばれる職種と、実際に建設作業を担う「技能者」と呼ばれる職種が協力して、建設工事を進めています。また、工事に入るまえに現地の状態を調べる「測量」「地質調査」、工事をするための「設計」など、インフラ整備のための調査や計画作りなどを担う「建設コンサルタント」という仕事もあります。

Q 土木、工学系の学部や学科を卒業しないと就職できませんか？

A そんなことはありません。学生時代は異なる分野の勉強をしていたり、別の分野から転職したものの、入社後に仕事を教わりながら現場を任されるようになった先輩方もたくさんいます。また、建設産業の世界には、実際に工事現場で働く仕事ばかりではなく、営業、経理、事務といったさまざまな事務系の仕事もたくさんあります。

Q 建設産業に必要な資格はどんなものがありますか？

A 代表的なものでは、工事現場の施工管理を行うための資格として、「施工管理技士」という資格があり、さらに「土木」「建築」「電気」「造園」といった専門分野に分かれています。そのほか、建築に関わるものとして「建築士」、各専門分野ごとの「技術士」という資格があります。また、専門的な技能を持ち、技能検定で合格することで得られる「技能士」という資格もあります。資格取得のための費用を会社が負担している場合もあります。

Q 建設産業に関わる会社はどのくらいありますか？

A 建設業法という法律にもとづく「建設業許可」を持つ会社(個人事業主も含む)だけでも、宮崎県内に4,300社近くあります。建設業許可を持たなくても一定の金額未満の軽微な工事は請け負うことができますし、測量・設計や地質調査、資材販売、運搬、警備業など、建設産業には多くの業種が含まれますので、その数は非常に多いということになります。

建設産業の世界で働くうえでの「気になる疑問」にお答えします！

Q 建設産業で働いている人はどのくらいいるのですか？女性の方も多いのでしょうか？

A 建設産業のうち「建設業」については、宮崎県内で43,763名の方が働いていますが、うち女性の方が6,519名です。日本全国では4,341,338名(うち女性が691,776名)の方が働いています(※)。このガイドブックには実際に建設産業の世界で活躍する方々の声を多数掲載していますが、女性の方も多数登場しています。※平成27年国勢調査

Q 入社後はどんなふうに成長できるのでしょうか？

A 会社ごとにさまざまな人材育成のしくみがありますが、最初は先輩社員の指導のもとOJT形式(実務を通じた教育訓練)で仕事を覚え、数年かけて経験を積みながら、仕事をしていく上で必要な専門資格を取り、工事の現場で指揮をとる立場になっていくケースが多いようです。資格取得のための費用を会社が負担している場合もあります。なお、このガイドブックには、各社の人材育成の制度やキャリア形成イメージについても記載していますので、参考にしてください。

Q 建設産業の給与はどのくらいですか？

A 建設産業には多くの業種が含まれますし、会社によっても異なりますが、参考に、宮崎県の「建設業」の新規卒業者の所定内給与は以下の通りです(※)。
高卒の場合:170,400円(宮崎県全産業:163,100円 全国の建設業:185,800円)
大卒の場合:203,300円(宮崎県全産業:205,400円 全国の建設業:227,700円)
なお、このガイドブックには、初任給や将来の給与・年収等について掲載している企業もありますので、参考にしてください。※令和2年 賃金構造基本統計調査(厚生労働省)

Q ちゃんと休みは取れるのでしょうか？

A 建設産業の世界でも働き方改革が進んでいます。休日は会社によって異なりますが、週休2日制も浸透しつつあります。また、工事現場の安全にかかわるため、勤務時間中も十分な休憩時間をとりながら、残業も少なくなるよう工夫している会社も増えています。このガイドブックには、さまざまな企業の勤務時間や休日についても記載しているので、参考にしてください。